JIYD

2015

特定非営利活動法人
青少年育成支援フォーラム（JIYD）

年次報告書

Japan Initiative for Youth Development
Annual Report 2015

特定非営利活動法人
青少年育成支援フォーラム
Japan Initiative for Youth Development

〒108-0074　東京都港区高輪4-10-63-302
TEL：03-3440-3373　FAX：03-3440-4447
E-mail：info@jiyd.org　URL：http://www.jiyd.org

発行者　馬渕 英晃
発行所　特定非営利活動法人　青少年育成支援フォーラム
発行日　2016年6月1日

9つの価値観を育む「ライフスキル教育」を子どもたちに届けよう
私たちは「Lions Quest ライフスキル教育プログラム」の
普及活動に取り組んでいます

FOCUS 2015～（今、注力すること）

プログラムの継続的な実施を促進するために

① 多様な教育現場に対応する運営方法づくり

教育現場のニーズや社会の実情にあわせ、ワークショップやフォローアップのさまざまな開催方法を提案する

② 実践者や協力者のネットワーク構築

プログラムの実践者や支援者が情報共有・意見交換する場を拡大する

③ 普及活動の継続・拡大に有効な情報公開や広報活動

普及展開の例示や実践事例などの広報ツールを定期的に提供する

*1999年にライオンズクエストプログラムを日本に導入して以来、普及活動の基盤整備・全国拡大を経て、2010年以降は「深化」を大きなテーマとしてきました。2014年度までのFOCUS（注力すること）として、授業実施率の向上、評価事業、教材開発の3点を掲げてきました。評価事業では、2010年から3年間をかけ、実践校でのプログラムの効果を測るプログラム評価が終了し、教材開発では、2013年7月より、それまでの「思春期版」に加えて「小学生版」を開発・導入しました。

理事長あいさつ

ライフスキル教育によって、子どもの自立心や社会性を高め、一人ひとりがたくましく生き抜く力を育む

理事長　野村　彰男
2016年5月吉日

日本の少子化の流れはとどまるところを知りません。総務省が5月5日の子どもの日に発表したところによると、今、15歳以下の子どもの数は1600万人余、35年連続して減り続けているとのことです。理由はさまざまにあることが指摘されていますが、子どもの減少はそのまま人口減に直結し、将来の活力源をそぎ、国内総生産（GDP）の縮小へとつながる深刻な問題です。

少子化をとどめるためのさまざまな施策は政府に期待するとして、子どもの数が減ってゆくのであればなおさら、私たち青少年育成支援フォーラム（JIYD）が取り組むライフスキル教育によって、子どもの自立心や社会性を高め、一人ひとりがたくましく生き抜く力を育むことが大事になると思われてなりません。

このほど2015年度のJIYDの年次報告書ができあがりましたので、全国のライオンズクラブの方々や教育関係者をはじめ、日頃から私たちの活動をご支援くださっている皆様にお届けいたします。

今回の報告書で注目していただきたい一つは、福島県須賀川市立第一中学校の取り組みの実践例です。もう一つは、ライフスキル教育を実践されている先生方の自主的な研究会の実例としての北海道（札幌）と鹿児島での二つの取り組みです。

須賀川市立第一中学校の取り組みは、3月のJIYD総会での講演で、同校の高橋史歩先生が教室でライフスキル教育の授業を受ける生徒たちの様子を写した写真を交えながら紹介してくださいました。生徒たちの笑顔が印象的で、高橋先生のお話はライフスキル教育に取り組む者を元気づけてくれる内容にあふれていました。

北海道では2015年7月に「ライフスキル研究会」が設立されました。ライオンズクラブ機関誌「LION 2016年3月号」に寄稿されたライオンズクラブメンバーの報告によると、ライフスキル教育の実践を通してぶつかる悩みを共有し、共に学び合おうと研究会への期待を熱く語る先生方や、それを支援するライオンズクラブとの連携の様子が読み取れます。同じような研究会は、北海道よりも先に鹿児島で発足しています。北海道や鹿児島での研究会とともに、このような自主的活動が全国に広がってくれることを願わずにはおれない活動と言えます。

JIYDの事業として、ライオンズクエスト認定講師の北山敏和先生はじめ皆様のご協力で「ライフスキル教育入門」の出版にこぎつけたのも、2015年度の特筆すべき成果で、ライオンズクエスト普及への頼もしいツールになることが期待されます。

全国のライオンズクラブの皆様方をはじめ、日頃ご支援くださっている皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

ライフスキル教育・実践事例

福島県須賀川市立第一中学校（1）

子どもたちはLSP※が大好き！（※ライフスキル教育プログラムの略）

1年間の準備期間を経て、2014年からライフスキル教育プログラムを導入している福島県須賀川市立第一中学校。2016年で導入3年目を迎える学校のこれまでの取り組みと現状を、同校から高橋史歩（しほ）先生にお越しいただき、JIYDの総会にあわせて実施した講演会でお話していただきました。ライオンズクエストプログラムを導入して起きた学校のさまざまな変化を、熱く楽しく語ってくださいました。その内容をご紹介します。

福島県須賀川市立
第一中学校
高橋 史歩先生

須賀川市はウルトラマンを生んだ都市。
ウルトラマンで町おこしをしている8万人ほど小さな都市。ウルトラマンの生みの親、円谷英二さんのふるさと。東京オリンピック男子マラソン銅メダリスト円谷幸吉さんは須賀川市立第一中学校の出身。

きっかけは震災。子どもたちを前向きにしたいという先生たちの想い、ライオンズクラブメンバーの「福島の子どもたちに」という想いから

須賀川市立第一中学校被害状況　左から:学校前、料理室、被服室

福島県のちょうど真ん中に位置する須賀川市立第一中学校。2011年3月11日の東日本大震災、第一中学校の校舎も校区も生徒たちも大きな被害を受けました。

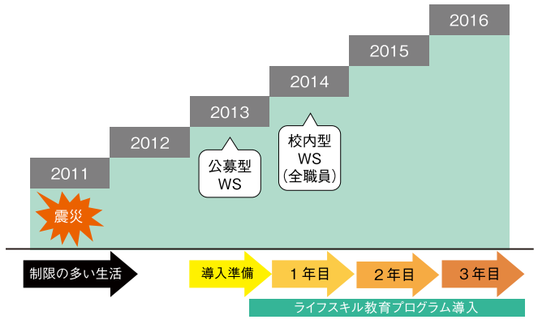
家の1階がつぶれ、仮住まいを強いられる子。学区から遠いところに引っ越しをして、車で送迎してもらい通学する現状。学校の通学路はひどい状況、中学校もピアノが倒れ、調理室の食器もすべて割れ、こんな状況でこれからどうなるのだろうと感じました。第一中学校のすぐ近くにある須賀川市立第一小学校はもっとひどい状況でした。グラウンドが大崩れし、ちょうど子どもたちの下校時間と重なり、子どもたちはわあわあ泣きました。校舎は全壊、立ち入り禁止となり、震災後、子どもたちは一歩も校舎に入れず、卒業式もできず、自分の荷物ともお別れできませんでした。中途半端な状態で第一中学校に入学し、中学校生活をスタートしました。

震災当時の学校は、被災した小学校の子どもたちが中学校でいっしょに勉強することになり、物と人が溢れ、混乱し、とても大変でした。教師たちは余裕がない状態で過ごしました。

4月の人事異動が凍結され、8月に人事異動が行われました。夏休みが明けて2学期になり、担任の先生が突然変わる、部活動の先生が突然変わる、行事の時期がずれるといった事が起き、これまで当たり前のように動いてきたことがガタガタとなりました。体育館が被災したので、入学式もできず、体育の授業や集会、部活動ができない事態となりました。子どもたちは節目節目をきちんとこなさないとずれてしまいます。小学校をきちんと終えること、中学校がきちんとスタートすることといった節目をきちんと迎えないと、何かずれてしまう。日々、このずれを感じながら過ごしていました。不安や混乱、不信感、イライラが大人も子どもも日常的でした。

なんとかこの状況から前向きに進みたいということで、ライフスキル教育プログラムを導入していくこととなりました。

■ 須賀川市立第一中学校LSP導入の流れ



ライオンズクエストプログラムとの出会い 体験して初めてわかった子どもたちの気持ち。テキストも素晴らしくてわかりやすい！

導入当時は震災の影響もあり、学校が落ち着きませんでした。ポケットに手を入れて偉そうに歩く子がいたり、校舎のあちこちで先生たちの怒鳴り声が絶えませんでした。「もういいよ！帰ってやるー！」「いいよ、学校なんて」の生徒の声、「静かにしろー！」「席につけー！」と叫ぶ先生の声が日常的な学校でした。

校舎のあちらこちらで生徒指導をする声が聞こえ、人間関係が上手くいかない子どもたちのコミュニケーション能力の低下を心配していました。ちょうどその頃、学校では「スキル教育」を取り入れなくてはいけないと思い始め、本を読んだり、資料を探していました。そのときに教頭が見つけてきてくれたのがこの「ライオンズクエストプログラム」です。

ライオンズクラブさんからのバックアップがあり、まずはじめに私ともう一人の教員がワークショップに参加しました。最初は本当に意味が分からず、半信半疑で参加しました。

参加するうち、だんだんと楽しくなってきて、参加した他の方から褒めてもらえたことがとても嬉しかったです。褒められるとこんなにも嬉しいんだと気付かされ、生徒も褒められるときっとこんなにも嬉しいんだと初めてわかりました。

また、「自分の考えを話すこと」の大切さに、私自身が気付かされました。本当はもっと私もしゃべりたいと。生徒も、もしかすると本当はしゃべりたいんだと。黙って発表もしてくれない、発言してくれないと私たちは思っていたけれど、しゃべるタイミングを与えていないだけだったと気付かされました。「子どもたちがしゃべるまで待つ」ということはワークショップで学んだことです。そしてテキストが素晴らしくて、系統立っていて、わかりやすいです。やり方も丁寧に書かれたテキストに出会えたことも大きかったです。

ワークショップで体験した授業を、教室で早速実践し、他の先生たちに見てもらいました。すると、子どもたちはすごくにこにこして、楽しく授業に参加しました。見ていた先生たちは、「学ぶスキルがはっきりしていて、私たちの学校が必要としていることとぴったり合っている。これは良い」という気持ちになりました。

実践している他校を視察 こんな授業をやってみたいとイメージする

導入までの1年間の準備期間はとても大きかったです。まず、担任陣で手分けして、JIYDに紹介してもらった実践校の授業を見に行きました。私は、栃木県の葛生中学校での授業を見せてもらいました。テキストではわからないことが、子どもたちの動きをみるとイメージができ、「こんな授業を私もやりたい」とすごく思いました。

そして、もっと先生たちにも理解してもらいたいと思い、全職員参加で、2時間のワークショップ形式の研修を行いました。「これはやれる！」「授業で使える！」と先生たちが思い、「来年からやってみよう！」と。体験することが一番わかりやすくて、効果は絶大でした。

学校ではLSP（=ライフスキル教育プログラム）という言葉で定着 「次は何をやるの？」とわくわくする子どもたち

スタートしたときは「プロパンガスの名前？」とか「化学記号？」と言っていた子どもたちですが、今ではすっかり「LSP」という言葉が定着しています。LSPの授業は、子どもたちの笑顔が溢れます。5教科の授業では出ない笑顔です。にこにこ顔の生徒たちを見て、お互いの授業を見せ合い、ともに創ってやっていこうとなりました。

導入がスタートした年の夏休みに、全職員参加で2日間のワークショップを校内で開催してもらいました。今でも鮮明に覚えていて、話題に上がるほどです。学校で2日間みっちり、校長先生も教頭先生も養護の先生もみんな平等に活動をする、同じ輪の中で活動するところがとても良かったです。お互いをよく知る機会にもなり、各々の個性を発見しました。はじめは「2日間の研修いやだな」とみんな感じていましたが、最後は「良かった！」で終わりました。この機会を通して、職員のチームワークが深まり、会話が増えました。同じことを皆で共有、体験することはとても大事だとわかりました。

ライフスキル教育・実践事例

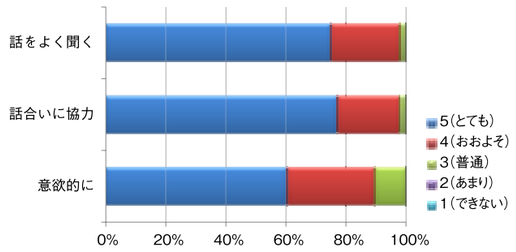
福島県須賀川市立第一中学校（2）

LSPは意欲的に取り組める楽しい授業

2015年度末、研究のまとめとして、子どもたちにアンケートを実施しました。1年生の時からLSPを授業で受けている2年生の成長を、ライフスキルの実践と併せてデータ化していこうと考えています。

5段階評定で、結果はすごいです。1と2がありません。「友だちの話や先生の話を聞くことは好きでしたか」という問いには「好きです。楽しかった!」と答えます。「班活動は協力的にできましたか」という問いには、「とってもできました!」と。子どもたちはLSPの授業が大好きです。

■ 2年生にアンケートした結果



授業実践紹介

LSP導入 1年目（2014年12月）

校内授業研究会
「意思決定」
1年2組
授業者：佐藤 涼太
宗像 祐介

担任の先生ではない2名の若手教員が授業を実施。こういうことができるものLSPの魅力。担任の先生以外がどんどん関わって実践できる。子どもたちはとても楽しいと意欲的に活動する。

副担任の先生もティーム・ティーチングの授業で

LSP導入 2年目（2015年9月）

校内授業研究会
「上手な話の聞き方」
特別支援学級
授業者：津金 令子

小学生版を参考にしながら、特別支援学級でも授業を実施。支援の先生が入りながら、子どもたちの能力に合わせて行った。こういう授業展開もできるとわかり、とても勉強になった。

支援員の先生がティーム・ティーチングに加わって

LSP導入 2年目（2015年11月）

校内授業研究会
「友情を築く」
1年3組
授業者：酒井 泰

担任が気持ちのすべてを込めて授業を行った。生徒たちも本当に楽しかったという授業。先生も子どもたちも絆が強くなる授業でした。

学校に起きた良い変化。先生たちの絆が強くなり、生徒との関係が良くなった!

スキル整理棚

ライフスキル教育プログラムを導入して、いろんな変化が起こりました。

まず先生たちが変わりました。通常は学年ごとに動くことが多いのですが、その垣根を越え、職員室での会話が増えました。授業の相談も担当教科の枠を越えてできるようになりました。一緒に1つの授業を創る楽しさを知り、先生たちの個性を自分たちで活かすことが上手になり、職員室の雰囲気が良くなりました。

ライオンズクエスト認定講師・柴先生からのアドバイスで「スキル棚」を作りました。教材や授業の共有ができ、「使うよ」「入れておいたよ」「あれ良いからやってごらん」といった会話が増え、学校の財産として、先生間で共有できるのがとても良いです。

やっぱりなんといっても、生徒との関係が良くなりました。LSPで勉強したことが生徒指導にすごく活きます。共通言語になります。子どもが落ち込んで、「もうだめだ」「やだ」となったときに、「谷底から頂上へでいこうか」で伝わります。そこから子どもが前向きに考え始めます。子どもとの共通言語ができたことは大きいです。

LSPの手法が学校のあちこちで当たり前のように使われています。「静かにしてサイン」もそのひとつです。このサインの効果で、学校から命令形の口調がとても減りました。集会をやっているときも「静かにしなさい」と言うことなく、誰かが手を挙げるとみんなが手を挙げ、静かになる、そして始まります。全クラスでLSPを取り入れた成果がさまざまなところで現れています。

2年生に聞きました!

「心に残っている授業は？」

「言動が他者に与える影響」

「悲しみ・喜びのポケット」という表し方が面白かったし、みんなで、どんなことをしてあげたら人は喜んでくれるかを楽しく話し合えたからです。

この授業の後から、相手の気持ちを考えてから行動するようになった。感情をコントロールすることが自分でも上手になったと思う。

「谷底から頂上へ」

谷底に行くことは簡単だけど、頂上に行くのは難しい。でも、考え方を少し変えるだけでも、頂上に行くことができると学んだ。

自分の考え方・行動で自分の生活や人生が変わるということに気付かされたからです。私はマイナス思考タイプなのですが、この授業から少しプラス思考になりました。

これからもLSP学習を取り入れて、子どもたちを伸ばしていきたい

年度末に全クラスで実施した「賞讃の気持ちを表現する」という授業は、1年間の振り返りに良い機会となりました。1年間を振り返り、友だちの良いところを認め合い、一人ひとりの良さを賞讃します。子どもたちはノリノリで授業に参加し、男子も女子もとても仲が良くなりました。導入当初はこのようにはなりませんでしたが、今では男女ともに一緒に活動するまでになりました。喜び溢れる表情を浮かべたり、友だち同士抱き合ったりしているところを見ると、「なんて可愛い子たち!」と思います。親ばかみたいなのですが、自分のクラスの子どもたちが可愛くてしょうがないです。

LSPを続けていく上での課題は、「人事異動にどう対応していくのか」「新しいスタッフにどのように伝えていくか」「忙しい中でどのように授業を皆で創っていくか」といったことがあります。それでも、「LSPってすごい!」「子どもたちに生きる力をつけていくんだ」とライフスキル教育の力を信じて、実践を続けていきたいと思っています。

ライオンズクエスト認定講師・柴咲子先生より

震災による子どもたちの変化に本プログラムを求め、教職員が一丸となって取り組み、まさしく「学校が変わる　先生が変わる　子どもたちが変わる」（ライフスキル教育入門）を実証。これからも応援しています!

JIYDより

「子どもたちに生きる力を」と願う先生とライオンズクラブの想いはプログラムの効果を高めているように思います。須賀川市立第一中学校の取り組みは、私たちライオンズクエスト普及事務局の勇気と力になっています。

東北地方太平洋沖地震の被災地域への教材費支援

JIYDでは、公益財団法人 森村豊明会からのご寄付により、2011年以降、被災地域（岩手・宮城・福島）で開催されているワークショップへ参加された学校教員が手にしている教材の費用を支援しています。2015年12月末までの支援総額は245万円です。

ライフスキル教育・普及活動事例 ライオンズクラブ国際協会335-C地区（京都・滋賀・奈良）

奈良10年の軌跡

ライオンズクラブ
国際協会
335－C地区
ライオンズクエスト
委員会
アドバイザー
下田吉美

県レベルでのワークショップ（教員研修）開催の仕組みを構築

2006年～2007年度、橿原ライオンズクラブ（奈良県）よりガバナーが誕生しました。当時のガバナー八嶌隆（2010～2014年JIYD理事）は、第一副地区ガバナーの時より、ガバナーになったら、青少年育成に関わる事を行いたいと決めておられ、それまで335-C地区で細々と取り組んでいたライオンズクエストプログラムに注目されました。地区全体で取り組みたいと、第一副地区ガバナーの時に、精力的に、各クラブと、奈良、滋賀各県の教育長に働きかけられました。

当時、JIYD発行のライオンズクエストPRビデオがあったので、パンフレットとビデオを持って、地元、奈良県の教育長に面会し、ライオンズクエストプログラムの説明を行いました。

奈良県では、数日後、奈良県立教育研究所指導主事より、ライオンズクエストプログラムに興味があるとの連絡をいただき、教育研究所を訪問しました。その折にライオンズクエストワークショップの開催を依頼し、早速、夏休みに奈良県全体の小中学校教員を対象にした、第1回ライオンズクエストワークショップ開催の運びとなりました。

参加教員の募集方法については、教育委員会より、奈良県小中学校校長会を通じて行えばとご紹介をいただき、以後、その方法で行っています。奈良県全体を対象としたワークショップは、奈良県小中学校校長会事務局を窓口に開催しています。開催3ヶ月位前に募集要綱を事務局窓口に渡し、県校長会で参加者を募集していただいています。

奈良県小中学校校長会は、月1回開催されており、ライオンズクエストワークショップ関係案内は、その折に議題として取り上げられ、奈良県小中学校校長会事務局から説明が行われます。この県校長会に出席している各地域代表の校長が、それぞれ地元に持ち帰り、さらに各地元で開催される校長会にて、案内文が配布されます。このような形で、奈良県下全小中学校に参加教員募集案内が行き届く形で推移してきました。

数年前からは、参加の機会均等を図るべく、地域別に参加人数が割り当てられています。また、各学校の校長より指名されて参加される教員がほとんどになりました。当初、年1回の開催でしたが、参加者の増加により、現在では、年2回（6月、12月）の開催に定着しました。回を重ねるにつれ、受講教員は若い教員が多くなり、今日では、初任者研修のようになっています。

他方、八嶌ガバナー（当時）は、当時、各クラブにライオンズクエストの必要性を説いて回られ、それに同意して、奈良県では受講された教員に対して、費用支援を行っていないクラブはゼロとの状況が継続されています。

10年間継続してきた秘訣

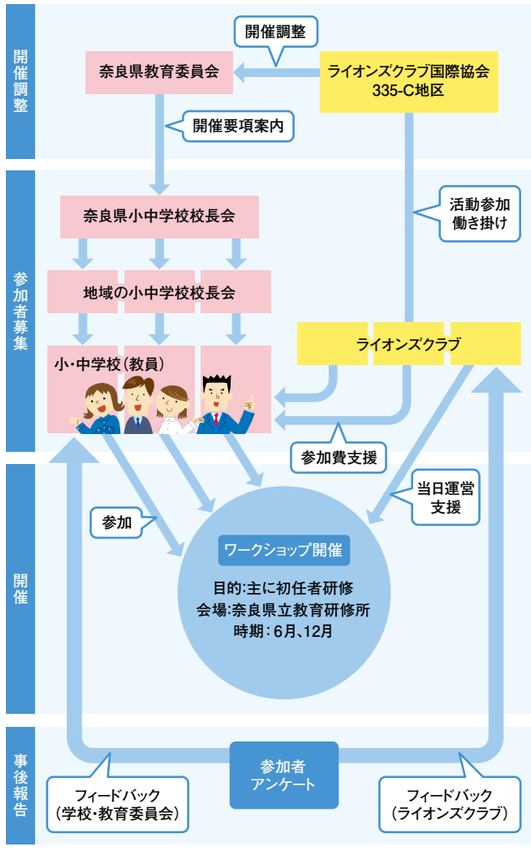
1. 県教育委員会の理解と協力
2. 県小中学校校長会の理解と協力
3. 県下のクラブの絶大な協力
4. 受講された先生方が、学級経営やこれからの教員生活に活かしたいと評価
5. 勤務校管理職が、受講された先生のためになったと評価

等の、理解・協力・評価によるところにあると思われます。

これらの理解・協力・評価を得るための一つの手段として、ワークショップを開催する毎に、受講者に当地区独自のアンケートを取り、名前を伏せ、a.勤務校の校長に、b.スポンサーして頂いたクラブに、c.県教育研究所に、受講者のアンケートと感想文を提出しています。受講された先生方がどのように感じ、何を受け取られたかの認識を一つにする努力をして参りました。

この事が、関係者皆様の理解を深め、ライオンズクエストプログラムの良さと必要性を、より深く捉えて頂けている事に繋がっていると感じています。

■ ワークショップ開催の流れ（開催調整から事後報告まで）



今後の展開

- ○初任者研修の一環として、ライオンズクエストワークショップの定着
- ○県下全初任者教員に対しての必修研修として、県教育研究所での採用へのアプローチ

今後の課題は、県下のクラブ減少に伴い、参加者のワークショップ参加費を支援してくださる担当地域に空白ができ、ワークショップ受講機会の均等が失われることのないように、対応が必要になってきていることです。

奈良10年を顧みて、毎年同じ時期に、この場所で途絶える事なく継続して行う事の大事さと必要性を今更ながら感じています。このことは335-C地区全体でも言えることであり、年間10～12回ライオンズクエストワークショップを開催して定着していることからも間違いのない方向で推移していると思っています。

ライオンズクエスト普及活動 全国展開の口火を切った335-C地区

日本におけるライオンズクエストの普及活動は、ライオンズクラブ国際協会330複合地区（東京・埼玉・神奈川・山梨）をパイロット地区として、2000年に始まりました。同協会335-C地区（京都・滋賀・奈良）は、331-A/B地区（北海道）と334-D地区（福井・石川・富山）と並び、その後の普及活動の全国展開の口火を切った地区の1つです。

335-C地区内で普及活動が開始された当初、JIYDは、ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会の支援を受け、同地区の関係者と協同して、地区内のライオンズクラブ関係者や、京都府教育委員会への訪問説明を行い、ワークショップ（京都府、2005年2月）を開催しました。

また、同地区では、京都教育大学（京都府京都市）での教員養成の為のライフスキル教育の実践といった先見的な取り組みを支援されています。同大学では、主に教員を目指す学部生を対象に教養科目の選択必修科目として「ライフスキル教育」を導入し、授業時間完了者には単位を付与しており、またライオンズクエストの二日間のワークショップも定期開催しています。この取り組みは、『2014年度年次報告書』で紹介していますので、是非、そちらもご覧ください。
http://www.jiyd.org/new_web/annual_report_2014.pdf

北海道ライフスキル研究会

教壇で生かすため、先生も学ぶ

ライオンズクラブ
国際協会
331－A地区
PR・ライオンズ
情報委員長
森 一男

「二日間のWSでは、教壇で生かし切れないよね。研修する場はないだろうか」ライオンズクエストライフスキル教育プログラムのワークショップ（以下、WS）に参加した教諭の熱望だった。331－A地区が、ライオンズクエストに取り組んでちょうど10年。「北海道ライフスキル研究会」を立ち上げようとの要望が、2015年1月のフォローアップワークショップ（以下、FWS）の参加者から湧き上がり、具現化した。

リーダー役になったのが、札幌市立上白石小学校の教務主任、石山栄次先生だった。石山先生は、FWSを10回近く受講しているこの道のベテラン。WSの過去の参加者名簿を調べ、研究会の加入を呼びかけた。小生もライオンズクラブのメンバーとして、所属するサッポロシニアライオンズクラブや、331－A地区のキャビネットへ加入を働きかけた。

そして「北海道ライフスキル研究会」は2015年7月に旗揚げした。会員は総勢約40人。石山先生は「子どもに教え込む指導は、思春期の子にはふさわしくありません。子ども自身が、自分で判断して、より良い生活を目指して改善出来る力（生きる力）を身に付ける指導が求められています。子どもたちに欠けている自己肯定感が高まり、前向きな生活を送れるようになります。そのためには、どう指導するかを研究会で学び合いましょう」と、熱く語る。

第1回研修会が、札幌市立上白石小学校（小倉光晴校長）で2015年11月21日に開かれた。公開授業、パネルディスカッション、ミニワークショップの3部構成。公開授業には、同校の3,4年生21人と保護者15人が参加。ライオンズクエスト（以下、LQ）認定講師篠田康人先生が、公開授業を担当した。

公開授業

会場は体育館。授業は、小学生版3年生単元1授業3「何かをあげて大きくなろう」。3,4年生が円陣になって椅子に座る。「やさしくしてあげる」、「ほめてあげる」、「教えてあげる」、「かしてあげる」の4項目について、子どもたちがカードに書く。「消しゴムを貸してあげる」、「教科書を貸してあげる」など、模造紙に貼っていく。

45分の授業は、アッという間に終わった。篠田先生は、「初めて会う子どもなのに直ぐ溶け込む」、参加した子どもたち、保護者は「分かりやすかった。楽しかった。時間が短かった」と感想を語った。

「いいところを褒め、子どもの心が動く。行動が変容する。自尊感情が高まります。ライフスキルが身についていきます」と篠田先生は解説、参加者も納得だ。

パネルディスカッション

小倉校長の司会で、3人が教育現場での実践を語った。石山先生（研究会会長）は、10月29日に開いた薬物乱用防止教室について触れ、「薬物をやると、悪い波及効果で家族、友達、学校、地域などに迷惑がかかる。自分の夢や命が無くなる」と、薬物に手を出さないスキルの必要性を強調。

小林八重子札幌・幌東中学校養護教諭（当時）は、「心と感情のコントロール」をテーマに、「朝、お早うと言っても相手から返答がなかった時、落ち込むのではなくて、聞こえなかったのかな、身体の調子が悪いのかな、と心の転換をする。肯定的に考える事も必要です」と力説した。

篠原寛之北海道立教育研究所・研究研修主事は「私が嬉しいよ、先生が嬉しいよと、一人称のアイ・メッセージを出す。すると、子どもは、認められたと自尊心が高まります」と話した。

ミニワークショップ

教諭やライオンズクラブのメンバーら24人が参加。「こうしようね」をテーマに4グループに分かれて、「目標設定」を体験した。「褒め合おうね」、「楽しい仲間になろうね」。プラス思考の必要性で意見が一致した。

研修会に参加した教諭は、教壇で生かす手ごたえを感じた。当クラブは、WS、FWS参加者を例会に招待する。教諭は、異業種との交流を喜び、メンバーはライオンズクエストへの理解を深める。招待例会に何回も出席した小林教諭は、研究会の中高部部長。2016年3月で養護教諭を退職。自由な身になり、4月24日にはライオンズクエスト説明員の資格を取得した。今後、クラブや学校を訪問し、ライオンズクエストの「伝道師」になる予定。

研究会は、会則を設け、年会費千円。毎年1回研修会を開く事にしており、2回目は6月18日に中高一貫教育で注目される市立札幌開成中等教育学校で開催する。私は、2009年に地区ライオンズクエスト委員長をやり、連続して14回WSを見て来た。ライオンズクエストは、教育革命だと思う。全員参加型の授業で、子どもの力を引き出し、コミュニケーション能力、肯定感も高める。思いやりの心を育てる。研究会が、北海道の教育界に新しい風を吹かせそうだ。

小林八重子様より

念願の研究会が発足し、今年は2回目が行われます。今までWSで学んだことが実践への道へと進み始めました。今後は会員それぞれが実践例を持ち寄り、交流することで更に財産が増えることを期待します。

鹿児島ライフスキル教育研究会

組織をつくり、人と人とがつながり、仲間とともに学び合う

鹿児島
ライフスキル
教育研究会
会長
梶原 末廣
（私立中高教諭）

1. 研究会設立まで

「鹿児島ライフスキル教育研究会」は、2016年4月で設立6年目を迎えました。2010年6月に鹿児島市で開催された「ライオンズクエストライフスキル教育プログラム」のワークショップ受講者を中心に呼びかけて、2011年2月に研究会を発足させました。発足のきっかけは、①ワークショップに参加しただけでは、実際の授業に自信を持って使えるほど理解しきれていない、②一人で勉強するよりも、会を立ち上げて皆で教材を詳しく勉強したい、③フォローアップ研修会の開催をライオンズクラブにお願いしよう、といった意見がワークショップの修了者から聞かれていたことでした。そこで、「鹿児島ライオンズクエスト研究会」（当初名称）を立ち上げる運びとなり、発会式及び第1回の勉強会を企画しました。まずはこれまでの実践の報告と学級づくりなどで使える指導内容（単元1）を中心に勉強することを計画しました。また、気軽に研究会に参加することができるように、研究会へ参加していれば、勉強会開催日当日の参加が無理な場合であっても、次回からの研究会の案内やライオンズクラブで計画されるワークショップやフォローアップワークショップなどの日程をお知らせすることとしました。そして、こうしたワークショップやフォローアップワークショップ開催日程の情報共有、フォローアップワークショップ開催のお願い、ワークショップ修了者に対する研究会への参加呼びかけなどは、ライオンズクラブとの協力が不可欠だと感じておりました。

2. 研究会の目的

研究会は、その目的を明確にするため、会則を設けて活動しています。この会は、「ライオンズクエストライフスキル教育プログラム」のワークショップ修了者を対象にして、同プ

ライフスキル教育・実践事例
ライフスキル教育研究会の紹介（2）

ログラムの理念を理解し、同プログラムを通して次の5点を推進することとしています。

❶ すべての子どもたちがそれぞれがもつ可能性を最大限に発揮できるようにサポートする
❷「生きる力」としてのライフスキルを育て、子どもたちの人格を高める
❸ 自分らしさを大切にしながら、社会の一員として責任を果たすことができるよう、その能力を伸ばす
❹ 保護者は、子どもにとって一番の教育者であると位置づけ、保護者を支援する
❺ すべての子どもを支援する思いやりのある大人の輪、教育の輪を広げる

3. 活動内容（例年）

ある年の活動内容は次の通りです。教材を読み込み、授業の構成やプログラムの考え方をより深く理解しようとしました。

5月 2時間／事例報告 テキスト等の読み合わせ 授業案検討
6月 2時間／事例報告 テキスト等の読み合わせ 授業案検討
8月 フォローアップワークショップへの参加（奄美大島、鹿児島市内の2回）
8月 校内型ワークショップへの参加、サポート
10月 2時間／事例報告 テキスト等の読み合わせ 授業案検討
11月 2時間／事例報告 テキスト等の読み合わせ 授業案検討
1月 2時間／事例報告 テキスト等の読み合わせ 授業案検討、懇親会
2月 2時間／本年度活動報告・次年度活動計画

4. フォローアップ研修会の開催

例年、夏に鹿児島で開催されるワークショップの前後に、研究会として「フォローアップ研修会」を実施しています。月例会で出された課題等について考えて実践報告や意見を持ち寄り、夏の「フォローアップ研修会」をより良い方向に研究や実践を進める好機としています。校務の関係で月例会に欠席しても、このフォローアップ研修会に参加することで同窓会のような和気藹々とした学び合いがなされています。

5. 支援の輪

積極的な研修や学習会が維持できているのは、ひとえにライオンズクラブ国際協会337-D地区の皆様の絶大なご支援があるからです。また、ライオンズクエスト認定講師・篠田康人先生には研究会発足以前より懇切なご指導とご教示をいただき、感謝申し上げます。研究会にとってライオンズクラブの方々は母親、ライオンズクエスト認定講師は父親のような存在といえます。この愛情をもって研究会はこれからも活動していきます。

6. 今後の課題

研究会では、毎年メンバー内で、会長・事務局長・書記会計・中学校部長・養護部長・監査という役員を決めています。いずれも中学校教員や教育委員会所属の者であり、年度の人事異動で遠方での勤務を余儀なくされるので、月例会の定例化は若干難しくなってきています。

また、鹿児島県内でワークショップやフォローアップワークショップが開催されるときには、お手伝いやサポートのために研究会のメンバーが出向くこともありますが、必ずしも対応が可能とはいえず、研究会のメンバー数強化が必要だと感じています。

7. 終わりに

時運というものがあると考えています。個の時代になって久しいですが、どこかで人々はつながりを求めているように感じます。それは、今なのではないでしょうか。そう信じて今後も研究会を維持していきたいと思います。3年前の秋、ワークショップ参加者は50名を超えており、この5年で最高に充実していました。その体験がこの心身にあります。青少年の健全育成のために、自らの日頃の研鑽と実践を続けながら、仲間を増やし研究会を更に発展させたいと切に願っています。

ライフスキル教育・普及活動事例
ライオンズクラブ国際協会336-C地区（広島）

福山市（336-C地区1R1Z）

私立5校が協力してワークショップ開催

広島県福山市では、2015 年度より、市内の私立 5 校合同で、ライオンズクエストのワークショップを開催しています。毎年、持ち回りで 1 校が幹事校となり、会場提供や開催準備、各校からの参加者のとりまとめを担い、開催する仕組みとなっています。講師派遣や教材・資材などの開催に関わる費用は、ライオンズクラブ国際協会 336-C 地区のライオンズクラブ国際財団・四大交付金と地元地域の 336-C 地区 1 リジョン 1 ゾーンのライオンズクラブが合同で支援しています。

福山市でのワークショップ開催は 2013 年からスタートしました。この時の開催は、福山市内の公立校と私立校を対象に、地元の福山ライオンズクラブの主催により開催されました。翌年の 2014 年にも同様に開催されています。これらのワークショップに参加された私立校の先生方から好評を得たことをきっかけとして、地元のライオンズクラブの仲介により、市内の私立 5 校が連携して、合同開催していく仕組みへと発展しました。

対象となっている 5 校には、小学校、中学校、高校と複数の校種が含まれているため、全教員が受講するまでには少し時間がかかります。しかし、私立の学校の先生方は異動が少なく、持ち回りで開催を重ねることにより、ワークショップを受講した教員が着実に増えていきます。それぞれの学校の特色に合わせたライオンズクエストによるライフスキル教育の実践が期待されています。

福山ライオンズクラブ：沖 一雄様より

参加された教員からは、研修内容が素晴らしい、今後の教育活動に組織的に導入したい、との希望も出ています。ライオンズクエストのワークショップを継続的に実施して、地域の子どもたちに、ライフスキルを身につけてもらえる、教育環境を広げていきたい。

世羅町（336-C地区2R2Z）

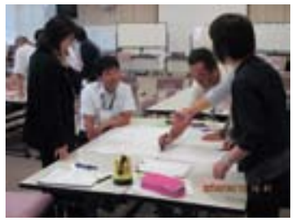
町教育委員会の「教員研修」に位置付けたワークショップ

世羅町は広島県のほぼ中央に位置する自然豊かな町です。地元の世羅甲山ライオンズクラブは、世羅町教育委員会と連携し、2014 年度から、夏休み期間中にライオンズクエストのワークショップを開催しています。世羅町教育委員会はワークショップを管内の「教員研修」に位置づけ、町教委が主体となって、町内の小学校（4 校）と中学校（3 校）の教員を計画的に参加させています。また、町内の県立高校（1 校）とも連携して若手教員が参加します。

世羅甲山ライオンズクラブは、前年から町教委と開催日程を調整し、教育委員会・ライオンズクラブ・JIYD の三者が連携して準備を進めていきます。町教委がワークショップの会場（せら文化センター）及び機材を提供し、会場設営、参加者受付等々諸準備、運営は町教委とライオンズクラブが協同で行い、2 日間のワークショップがスムーズに開催できるようサポートします。なお、講師派遣や教材・資材などの開催費用は、ライオンズクラブ国際協会 336-C 地区のライオンズクラブ国際財団・四大交付金と世羅甲山ライオンズクラブにより支援しています。

世羅町教育委員会は、「ライフスキル教育」に基づく教員の指導力向上を目的として、小学校・中学校の 40 歳代前半の教員を対象とした「リーダー養成」、30 歳代の教員を対象とした「ミドルリーダー養成」、教頭を中心とした「管理職研修」等の計画研修の一環にワークショップを位置づけ、2014 年度、2015 年度と開催し、さらに今年 2016 年度 3 回目の開催をすることになりました。今年度開催により、小・中学校教員のほぼ全員が受講することになります。

ライオンズクエスト「ライフスキル教育」プログラムが、町内の学校教育の基盤を支える一役を担い、学校を中心に、学校・家庭・地域が連携して子ども・青少年を育成していく、ライオンズクエストの理想像を体現するモデルケースとして継続・発展されることを願っています。



世羅甲山ライオンズクラブ：瀬尾 圭三様より

2012 年 11 月ライオンズクエストセミナーが広島市で開催され初めて参加しました。今日の教育現場には、ワークショップのような研修が必要であるとの気持ちが日ごとに募り、地元の学校にも是非導入したいとの思いで町教育長に紹介し、充実した研修内容、大きな成果が期待できる実践事例を粘り強く説明し、当初拒否反応の教育長が開催を承諾され実現に至りました。初回、2 回目と開催が事前説明通り大成功に終わりました。ワークショップは地元の教育委員会の理解と協力なくしては十分な成果には繋がらないと思います。地元教委が主体となったワークショップのモデルケースといっても過言ではありません。ただし、ここまで順調に推進し成功してきた背景には JIYD との緊密な連携、ご支援が大きいことを申し添えます。

2015年度事業報告

ライオンズクエストプログラムをより多くの人に知ってほしい、実践してほしいという思いがさまざまな方面から形になっていった一年。いろいろなツールをどのように活用していくかが次の課題です。

年間ワークショップ106回 参加者の高い満足度に支えられています

ライオンズクエスト「ライフスキル教育」プログラムのワークショップは、2日間をかけて、プログラムの理念、指導方法について、体験的に学習する研修会です。2015年度は、全国各地で、ライオンズクラブの支援により、多くは県・市区町村の教育委員会と連携して、106回開催し、2,438名が参加(修了)しました。

◎ 2015 年度ワークショップ開催ハイライト

- ▶開催形態 (※) の内訳 : 公募型 55 回、校内型 51 回
- ▶修了者の 60%が 20 代・30 代、次いで 40 代 (17%)
- ▶修了者の 46%が小学校教員、38%が中学校教員
- ▶修了者の 98%が「満足した・やや満足した」と回答

(※「公募型」では参加者を開催地域から募集、「校内型」は特定の学校または校区(1校の中学校と複数の小学校)を対象に開催)

「ライフスキル教育入門」を出版しました

2015年7月、ライフスキル教育とは何か?ライオンズクエスト「ライフスキル教育」プログラムはどんなプログラム?という疑問に答える入門の書籍を出版しました。認定講師をはじめ、多くの実践校関係者やライオンズクラブメンバーにもご協力いただき、さまざまな視点からプログラムについてご紹介しています。

ライオンズクエストプログラムのホームページをリニューアルしました

プログラムの成り立ちや特徴はもちろんのこと、ワークショップの内容や教材の紹介、全国のワークショップ開催情報などを掲載しています。ホームページからパンフレットや書籍の購入も可能です。

説明員研修会・地区ライオンズクエスト関係者勉強会を開催しました

2015年7月14日、東京都文京区で、ライオンズクエストプログラム説明員とライオンズクラブのライオンズクエスト関係者(地区ライオンズクエスト委員会関係者)が一堂に会し、プログラムをどう捉えてどのように普及活動を展開していくかを考える研修会・勉強会を開催しました。分科会では、説明員はグループごとに模擬授業を実施、地区関係者は普及活動の仕組みや流れを確認。一日を通して、参加者の前向きな姿勢と活発な意見交換がみられました。

『第2回ライオンズクエスト・フォーラム全国大会』(栃木県佐野市)が開催されました

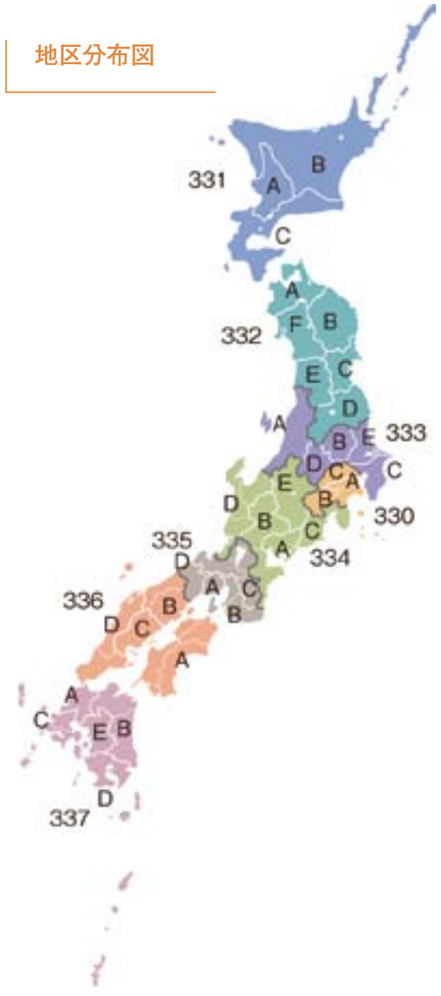
2015年8月22-23日、栃木県佐野市で、ライオンズクエストプログラムを導入している佐野日本大学中等教育学校を会場として、『第2回ライオンズクエスト・フォーラム全国大会』が開催されました。全国から約400名を超える方々が集まりました。1日目はライオンズクラブメンバーの普及活動報告、認定講師の基調講演のほか、中高生全14クラスの公開授業を見学し、授業を実施した先生方と授業や学校の取り組みについての意見交換、授業を受けた生徒へのインタビューを実施しました。生徒たちが意欲的に授業に取り組む姿を見ることができ、生徒や先生にプログラムに取り組んでみた実際の感想や意見を聞くことができる大変貴重な機会となりました。2日目には、実践者による学校の取り組み紹介、認定講師による体験型セミナーを実施しました。

ライオンズクラブによる普及活動の広がり

2015年末現在、ライオンズクエストプログラム説明員は全国に58名

ライオンズクエストプログラム説明員は、ライオンズクラブの推薦を受けたライオンズメンバーなどで、JIYDの講習を受けてプログラムの説明・模擬授業を含めたセミナーを実施できるようになった方です。地域の学校や教育委員会を訪問して説明やセミナーを開催したり、ライオンズクラブの例会や会合でプログラムを紹介したりしています。2015年7月に制度をリニューアルし、各地区の普及活動をサポートする役割も追加されました。地域のニーズに対応する普及活動に欠かせない存在となっています。

地区分布図



LCIF四大交付金・普及拡大に取り組む地区は31準地区に広がる

ライオンズクラブ国際財団(LCIF)より、全国のライオンズクラブが地区単位で助成金(四大交付金)を得て、普及活動に取り組んでいます。多くが継続的に取り組んでいる地区です。2015年7月からは新たに1地区(※)が加わりました。

LCIF四大交付金実施地区 (2015年1月～2015年12月)

複合地区	準地区	都道府県	実施	説明員
330	330-A	東京		
	330-B	神奈川・山梨		
	330-C	埼玉	○	
331	331-A	北海道 (中央)	○	1
	331-B	北海道 (北・東)	○	
	331-C	北海道 (南)	○	
332	332-A	青森	○	1
	332-B	岩手	○	1
	332-C	宮城		3
	332-D	福島	○	1
	332-E	山形	○	1
	332-F	秋田	○	
333	333-A	新潟	○	1
	333-B	栃木	○	1
	333-C	千葉	○	4
	333-D	群馬	○	8
	333-E	茨城	○	
334	334-A	愛知	○	3
	334-B	岐阜・三重	○	2
	334-C	静岡	○	8
	334-D	富山・石川・福井	○	5
	334-E	長野	○	
335	335-A	兵庫 (東)	○	
	335-B	大阪・和歌山	○	1
	335-C	滋賀・京都・奈良	○	1
	335-D	兵庫 (西)	○	1
336	336-A	徳島・高知・香川・愛媛	○	2
	336-B	鳥取・岡山	○	
	336-C	広島	○	
	336-D	山口・島根	○	3
337	337-A	福岡	※	
	337-B	大分・宮崎	○	1
	337-C	佐賀・長崎	○	
	337-D	鹿児島・沖縄	○	8
	337-E	熊本		1
合計			31	58

2015年度決算報告 1

貸借対照表 2015 年 12 月 31 日現在

科　目	当期分	前期分	差　異
《Ⅰ資産の部》			
【流動資産】			
現金・預金			
一般口	3,794,104	2,314,914	1,479,190
立替資金口 ※1	35,247,592	28,095,359	7,152,233
貯蔵品	5,522,224	7,731,440	△ 2,209,216
前払費用	916,008	807,584	108,424
立替金	0	0	0
未収入金	16,801,948	25,795,256	△ 8,993,308
流動資産合計	62,281,876	64,744,553	△ 2,462,677
【固定資産】			
什器備品	62,819	135,848	△ 73,029
敷金	300,000	300,000	0
ライフスキル教育普及事業積立預金 ※2	13,000,000	13,000,000	0
固定資産合計	13,362,819	13,435,848	△ 73,029
資産の部　合計	75,644,695	78,180,401	△ 2,535,706
《Ⅱ負債の部》			
【流動負債】			
未払金	1,053,332	834,380	218,952
仮受金	24,000	0	24,000
預り金	161,080	304,834	△ 143,754
未払消費税	570,000	539,700	30,300
流動負債合計	1,808,412	1,678,914	129,498
《Ⅲ正味財産の部》			
前期繰越正味財産額	76,501,487	78,990,601	△ 2,489,114
当期正味財産増減額	△ 2,665,204	△ 2,489,114	△ 176,090
正味財産の部　合計	73,836,283	76,501,487	△ 2,665,204
負債及び正味財産の部　合計	75,644,695	78,180,401	△ 2,535,706

※1. ライフスキル事業の運転資金です。
※2. ライフスキル事業に於ける中・長期積立金で、教材開発など予測される付随事業への充当、および長期に渡る活動の維持を目的としています。

活動計算書（正味財産増減計算書）自 2015 年 1 月 1 日　至 2015 年 12 月 31 日

（単位：円）

科　目	当期分	前期分	差　異
《Ⅰ経常収益》			
【受取会費】			
正会員受取会費			
個人	345,000	315,000	30,000
法人	0	0	0
受取会費計	345,000	315,000	30,000
【受取寄付金】			
使途指定寄付金	422,840	132,195	290,645
一般寄付金	70,000	75,000	△ 5,000
受取寄付金計	492,840	207,195	285,645
【受取助成金-ライフスキル教育普及事業】※1			
ライオンズクラブ国際財団	49,823,141	46,753,001	3,070,140
その他	2,829,470	3,647,029	△ 817,559
受取助成金-ライフスキル教育普及事業計	52,652,611	50,400,030	2,252,581
【事業収益-ライフスキル教育普及事業】			
ワークショップ参加費収益	12,604,000	13,762,000	△ 1,158,000
その他:体験会謝礼等	2,081,707	1,846,770	234,937
事業収益-ライフスキル教育普及事業計	14,685,707	15,608,770	△ 923,063
【その他収益】			
受取利息	10,277	10,921	△ 644
雑収入			
ワークショップキャンセル料	370,000	329,510	40,490
書籍売上 ※2	1,184,400	32,000	1,152,400
その他収益計	1,564,677	372,431	1,192,246
経常収益計	69,740,835	66,903,426	2,837,409
《Ⅱ経常費用》			
【事業費】			
(1)人件費			
給料手当	14,612,819	12,161,394	2,451,425
法定福利費	1,455,857	1,073,608	382,249
通勤費	794,094	703,212	90,882
人件費計	16,862,770	13,938,214	2,924,556
(2)その他経費			
謝金 ※3	14,165,851	14,118,217	47,634
通信費	397,456	400,794	△ 3,338
荷造運賃	2,247,737	2,040,835	206,902
旅費交通費	6,656,716	6,684,909	△ 28,193
WS昼食代 ※4	75,800	122,160	△ 46,360
消耗品費	506,274	430,248	76,026
会場費	574,982	423,680	151,302
家賃	1,296,000	1,280,000	16,000
リース料	311,220	312,010	△ 790
支払手数料	111,460	112,959	△ 1,499
印刷費 ※5	18,421,942	17,078,751	1,343,191
ライセンス料 ※6	1,582,402	1,433,228	149,174
外注費	490,280	744,884	△ 254,604
その他 ※7	291,788	553,861	△ 262,073
その他経費計	47,129,908	45,736,536	1,393,372
事業費計	63,992,678	59,674,750	4,317,928
【管理費】			
(1)人件費			
給料手当	3,335,994	3,874,657	△ 538,663
法定福利費	982,348	1,146,010	△ 163,662
通勤費	201,930	280,404	△ 78,474
人件費計	4,520,272	5,301,071	△ 780,799
(2)その他経費			
支払報酬※8	309,485	332,177	△ 22,692
通信費	357,919	445,721	△ 87,802
荷造運賃	34,529	59,280	△ 24,751
水道光熱費	123,142	139,176	△ 16,034
旅費交通費	216,422	192,152	24,270
消耗品費	228,752	463,980	△ 235,228
会場費	88,560	89,280	△ 720
家賃	1,296,000	1,280,000	16,000
租税公課	572,045	542,933	29,112
リース料	311,220	311,900	△ 680
支払手数料	73,268	87,884	△ 14,616
印刷費	26,787	40,168	△ 13,381
減価償却費	73,029	143,288	△ 70,259
その他 ※9	181,931	288,780	△ 106,849
その他経費計	3,893,089	4,416,719	△ 523,630
管理費計	8,413,361	9,717,790	△ 1,304,429
経常費用計	72,406,039	69,392,540	3,013,499
当期経常増減額	△ 2,665,204	△ 2,489,114	△ 176,090
《Ⅲ経常外収益》経常外収益計	0	0	0
《Ⅳ経常外費用》経常外費用計	0	0	0
当期正味財産増減額	△ 2,665,204	△ 2,489,114	△ 176,090
前期繰越正味財産額	76,501,487	78,990,601	△ 2,489,114
次期繰越正味財産額	73,836,283	76,501,487	△ 2,665,204

※1.『受取助成金- ライフスキル教育普及事業』の細目として、ライオンズクラブ国際財団のライオンズクエスト四大交付金事業に関わる受取助成金は「ライオンズクラブ国際財団」、それ以外の事業に関わる受取助成金については「その他」と表記しています。 ※2.『ライフスキル教育入門』(JIYD 著)及び『ライフスキルで進めるキャリア教育』(寺本之人著)の書籍販売代です。 ※3.ワークショップやセミナー開催におけるライオンズクエスト認定講師および説明員への謝金、普及・広報活動におけるPR 資料の原稿執筆料、教材開発・改訂、認定講師養成、ワークショップのアンケート集計などに対する謝金です。 ※4.東京ワークショップ（JIYD 共催）の昼食代です。 ※5.教材、書籍、パンフレット、年次報告書、名刺等の印刷です。 ※6.ライオンズクラブ国際財団（LCIF）に対するライオンズクエスト ライフスキル教育プログラムのライセンス料です。 ※7.会議費、修繕費、雑費が含まれます。 ※8.会計監査報酬、労務諸手続報酬、総会講演会謝金です。 ※9.会議費、保険料、諸会費、修繕費、雑費が含まれます。

2015年度決算報告 ……2

事業費の内訳

ライフスキル教育事業には、ワークショップの開催、セミナーの開催、教材開発・改訂事業、認定講師養成事業、評価事業等が含まれます。

広報事業には、年報の発行、ホームページの運営・管理が含まれます。

	ライフスキル教育事業	広報事業計	事業費計
（1）人件費			
給料手当	14,432,819	180,000	14,612,819
法定福利費	1,455,857	0	1,455,857
通勤費	794,094	0	794,094
人件費計	16,682,770	180,000	16,862,770
（2）その他経費			
謝金	14,165,851	0	14,165,851
通信費	380,268	0	397,456
荷造運賃	2,173,602	0	2,247,737
旅費交通費	6,656,716	0	6,656,716
WS昼食代	75,800	0	75,800
消耗品費	506,274	0	506,274
会場費	574,982	1,080	574,982
家賃	1,296,000	58,530	1,296,000
リース料	311,220		311,220
支払手数料	110,380	218,360	111,460
印刷費	18,363,412	0	18,421,942
ライセンス料	1,582,402	369,293	1,582,402
外注費	271,920	549,293	490,280
その他	291,788	58,530	291,788
その他経費計	46,760,615	369,293	47,129,908
	63,443,385	549,293	63,992,678

監査報告書

監査報告書

2016年度事業計画 ……1

2015年に引き続き、広報ツールの充実を図っていきます。また、教材や認定講師などの普及活動の基盤を強化するとともに、全国の関係者とのコミュニケーションにも注力していきます。

多様なワークショップ開催形態を検討、新しいスタイルにトライアルします

これまで二日間連続開催のみを基本としていたワークショップ開催形態を、多様なニーズに応えるべく、一日のみで修了できるスタイルにトライアルします。トライアルの開催時期、正式な導入や方法は検討中です。なお、二日間連続ではないワークショップ開催形態として、“スプリット開催”（1日目と2日目を連続ではなく離れた日程で開催する）は既に導入しており、長期休暇中以外の時期の、特に校内型ワークショップで実施しています。

プログラムを映像で紹介

ライオンズクエスト「ライフスキル教育」プログラムの特徴は？どんな中身なの？というプログラムの入口を紹介するPR映像を制作します。プログラムの内容を紹介するのはもちろんのこと、実践校の生徒や先生の声も収録します。DVDや動画共有サイトでの配信を予定しています。

（イメージ）

新刊を出版！「ライフスキル授業お助けレシピ」

「認定講師 柴 咲子の ライフスキル授業お助けレシピ
子どもたちも先生も　楽しめる！学べる！元気になれる！」
Ver.ライオンズクエストライフスキル教育プログラム 思春期版

プログラムをのぞいてみたい、試してみたいという方や授業展開がわかって授業計画を立てる際の参考になるお助け本です。認定講師・柴先生が、豊富な授業実践経験をもとにご執筆くださいました。本のポイントは、

- ▶思春期版プログラムの中から 38 の授業について、あらすじがわかる！
- ▶各授業を実施する時のアドバイスを紹介！
- ▶授業を受けた生徒の反応や効果も掲載！
- ▶ライフスキル教育を学校で推進しようとするときのポイントを紹介！
- ▶小学生版をお持ちの方でも十分にプログラムの中身がわかる！

▽本の詳細やお申込みはこちら↓
http://lionsquest-japan.org/book_order_recipe/

思春期版教材が全面改訂します！小学生版の改訂にも着手

数年来の課題である思春期版の改訂が2016年末にいよいよ終了予定です。新しくなった英語版を基本として翻訳・日本語化し、全面リニューアル。続いて2017年度には小学生版も全面リニューアルする計画です。

2016年度事業計画 ……2

ライオンズクエスト・ワークショップの効果を計る国際調査に協力／参加します！

フィンランドのヘルシンキ大学が中心となって、ライオンズクエストプログラムを導入している6カ国（フィンランド、オーストリア、キプロス、リトアニア、コロンビア、日本）が協力して、ワークショップの効果を計る国際比較調査に取り組んでいます。プログラムが扱う知識やスキル、それに対する認識の状況とワークショップ受講による変化を把握します。日本は2015年より調査協力しており、各国より集められたデータはヘルシンキ大学で分析され、2017年6月まで国際的な学術会議・学術誌で発表される予定です。

認定講師養成の準備を開始します

ワークショップの開催時期が夏休み期間中に集中し、ワークショップの開催形態多様化を進める中で、中長期的に安定して認定講師の派遣要請に対応できるようにするため、より安定的な認定講師養成の仕組みが必要となっています。対策の第一歩として、認定講師候補者選定委員会（仮称）の設置、講師候補者の公募化など、認定講師養成制度の仕組みの強化に着手します。

認定講師の研修制度を充実化

認定講師のスキルアップやチームワークのさらなる向上を目指して、認定講師の研修を積極的に取り組んでいきます。

韓国・台湾ライオンズクエスト導入事業への支援

2015年度同様、韓国ではライオンズクエスト導入事業が進行しており、ＪＩＹＤは認定講師養成事業支援と、ワークショップ開催のノウハウ提供を中心にお手伝いしています。また、台湾におけるライオンズクエスト導入事業にも協力していきます。

今年もやります！「説明員研修会・地区ライオンズクエスト関係者勉強会」

ライオンズクエストプログラム説明員の研修と、各地のライオンズクラブの地区ライオンズクエスト関係者の皆さまに普及活動の仕組みなどを知っていただく機会として、「説明員研修会・地区ライオンズクエスト関係者勉強会」を今年も開催します。立場を超えて、プログラムの普及活動を皆で考えていきます！概要（予定）は以下の通りです。

▶2016年9月24日（土）午前10時半～午後5時
▶日本印刷会館・会議室にて（東京都中央区新富1-16-8）

安定したワークショップ、フォローアップワークショップの開催

過去数年にわたり継続されているワークショップの年間開催数100回を目指します。また、実践校のニーズにあったフォローアップ活動を実施していきます。

Facebook運用中

https://www.facebook.com/lionsquest.japan

ライオンズクエスト「ライフスキル教育」プログラムのFacebookを運用中。関係者や実践者間のネットワークづくり、日々の活動を紹介、情報提供しています。

会員寄付者 理事会

2015年度会員（2015年12月末日現在）

○個人:50名

粟倉 健二　西園寺 裕夫　谷 和実　藤田 武司　百田 勝彦
飯田 助知　柴田 誠　成瀬 健生　降矢 千秋　山田 礼子
石原 典子　島田 佳宣　西木 宣雄　水谷 隆夫　湯浅 清文

2015年度寄付者（2015年12月末日現在）

○法人・団体

ダイドードリンコ 株式会社　トヨタエルアンドエフ東京株式会社

○個人:10名

※上記の会員、並びに寄付者の法人名・個人名は、掲載をご承諾頂いた方のみ掲載しています。（敬称略）

理事会（2016年4月1日現在）

理事長	野村 彰男	公益財団法人日本国際連合協会 理事 特別非営利活動法人フォーリン・プレスセンター 理事
理事	中雄 政幸	特定非営利活動法人 青少年育成支援フォーラム ファウンダー（前事務局長、L.）
	栗田 收司	元日本ビクター株式会社取締役
	西田 浩子	公益財団法人かめのり財団　理事・事務局長
	小西 宗仁	ライオンズクラブ国際協会333-C地区 地区名誉顧問・元地区ガバナー 公益財団法人 船橋市生きがい福祉事業団 副理事長
	佐渡 涼子	ライオンズクエスト認定上級講師
	北山 敏和	ライオンズクエスト認定講師 健康教育講師
	足達 靖彦	ライオンズクラブ国際協会335-C地区　名誉顧問・元地区ガバナー 学校法人明珠学園理事、京都翔英高等学校副校長
	馬渕 英晃	特定非営利活動法人 青少年育成支援フォーラム 事務局長兼務 ライオンズクエスト カントリーディレクター
名誉理事	守隨 武雄	パナソニック株式会社　客員
	藤本 厚子	元幼稚園教諭
監事	山本 和夫	元東京ライオンズクラブ会長 公認会計士

※L.=ライオンズメンバー

ライオンズクエスト認定講師（2016年4月1日現在）

岡松 佐知子　（スクールカウンセラー、臨床心理士）
北山　敏和　（青少年育成支援フォーラム理事、健康教育講師）
佐渡　涼子　（※1.　青少年育成支援フォーラム理事、元中高英語非常勤講師、カウンセラー）
篠田　康人　（私立小中高等学校教諭）
柴　　咲子　（元公立中学校教諭）
嶋田　祐子　（元公立中学校教諭）
寺本　之人　（公立学校教諭、元教育委員会指導主事）
外川　澄子　（元公立小学校長）
中村 千恵子　（元公立中学校教諭）
原田　達明　（公立中学校講師、元公立小・中学校教諭、元公立高等学校講師）

※1.=認定上級講師、五十音順

JIYDのネットワークと活動

皆様のご理解・ご支援をいただきながら、事業パートナーと協同して、
「ライフスキル教育」の普及に取り組んでいます。

ライオンズクラブ国際協会（LCI）

世界中に4万6千を超えるクラブ、140万人以上の会員を有する世界最大の奉仕団体で、200を超える国・地域でメンバーは地域奉仕に取り組んでいます。ライオンズクラブの活動分野は、視力関係、地域奉仕活動、環境、災害救援など、多岐にわたり、ライオンズクエストプログラムの普及を含む青少年育成はその一つです。

○JIYDは、LQ実施団体として、ライオンズクラブによる普及活動をサポートするとともに、協同して普及活動に取り組んでいます。

ライオンズクラブ国際財団（LCIF）

人類の奉仕に貢献することを目的に、LCI により設立されました。2002 年にライオンズクエストプログラムの著作権を取得し、同財団の青少年健全育成プログラムとして、世界各国のライオンズクラブによる普及活動を支援しています。

○JIYDは、2003年以降、LCIFより日本におけるライオンズクエスト実施団体として指定されています。

International Youth Foundation（IYF、国際青少年育成財団）

ライオンズクエストプログラムを開発したリック・リトルにより1990 年に創設されました。青少年の置かれている状況と将来展望を改善すべく、世界各地の団体とパートナーシップ関係を結び、各地の青少年のニーズに合致した事業を見出し、広めています。

○JIYDは、1997年にIYFの日本事務局(IYF-Japan)として設置され、2002年にNPO法人化して以降、現在もGlobal Partner Networkのメンバーです。

企業・団体・個人

JIYD の事務局運営や「ライフスキル教育」普及事業に対して、ご支援をいただいています。

JIYD

特定非営利活動法人
青少年育成支援フォーラム

VISION

すべての青少年が、右記にあげる「5つの財産」をもって成長していくことのできる社会を目指します。

1. 無条件に受け入れる大人が一人でもいる
2. 眠り、遊び、学び、「居る」ことのできる安全で安心できる場所
3. 心身ともに健康な生活習慣
4. 人のためになることをする機会
5. 社会人として自立できる技能、知識、価値観を身につける機会

MISSION

より多くの青少年に、よりよく役立つプログラムの拡大・強化・普及を効率的に進め、青少年の健全育成に寄与する。

ライフスキル教育普及事業

ライオンズクエスト

○普及活動

ワークショップ開催
プログラム導入・実施支援
セミナー開催
教材開発・改訂
評価事業
認定講師養成

教育行政
学校
教員
青少年活動指導者

子ども
青少年